

令和4年度 第4回大島区地域協議会 次第

日 時：令和4年7月27日（水）

午後2時から

場 所：大島就業改善センター
3階 大会議室

1 開 会

2 報 告

(1) 安塚中学校、浦川原中学校及び大島中学校の統合方式について

資料No. 1

3 協 議

(1) 視察研修について

資料No. 2

4 その他

(1) 第5回地域協議会の開催日について

【開催日：___月___日、開催時間：___時から】

5 閉 会

安塚中学校・浦川原中学校・大島中学校の統合について

統合方式を「新設統合」に決定しました

令和4年7月19日 上越市教育委員会 教育総務課

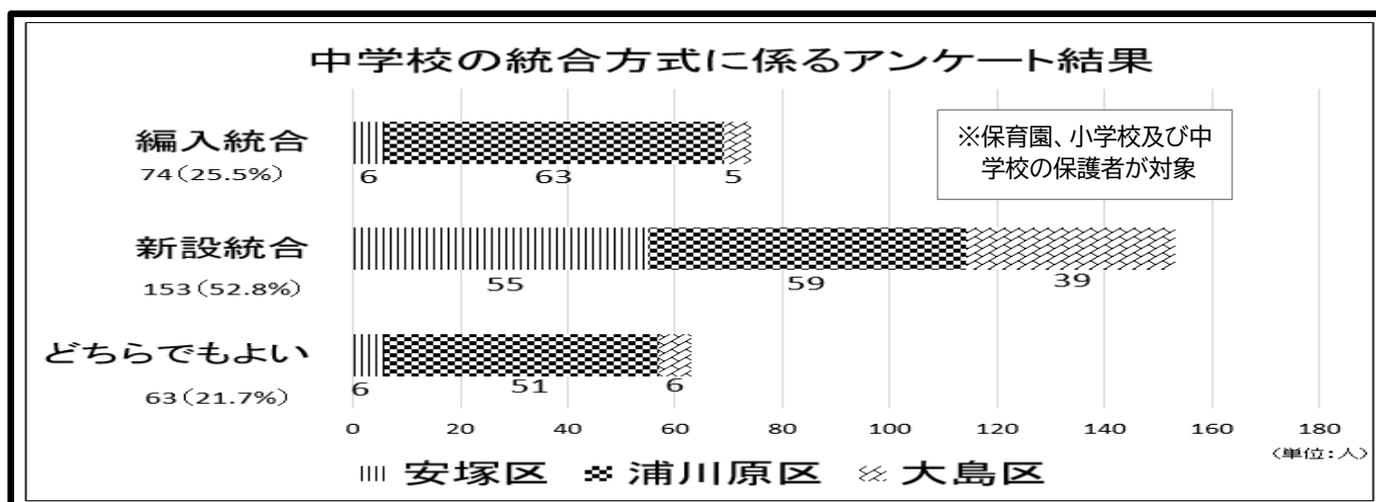
【新設統合とは…】

- ・安塚・浦川原・大島の3中学校は閉校します。
- ・安塚・浦川原・大島の中学校は、浦川原中学校の校舎を使用して、新しい学校としてスタートします。

◇ 5月19日(木)と6月30日(木)の2回にわたり、統合方式を決める意見交換会を開催し、「編入統合」か「新設統合」かについて、参加者と上越市教育委員会で意見を交わしました。1回目の意見交換会で、保護者の意向を確認した方がよいということになり、6月上旬にPTA等により保護者アンケートが実施されました。

◇ アンケート結果を踏まえた2回目の意見交換会では、参加者から「新設統合」を希望する意見が多く出されました。浦川原区の参加者からは、「安塚区と大島区の意見を尊重したい」という意見が出されました。

◇ これらの意見を基に市としては、「新設統合」が妥当であると判断しました。今後、新しい校名案の募集を進めていくことになります。なお、統合は、令和6年4月1日を予定しています。



【意見交換会の参加者】 ※各区各団体1名ずつの参加です。

- ・小学校PTA代表 ・中学校PTA代表 ・保育園保護者会代表
- ・地域協議会代表 ・町内会長連絡協議会代表 ・小中学校運営協議会(CS)代表

【問合せ先】

大島区総合事務所 教育・文化グループ
担当:武田、濃野 電話:594-3101

上越市教育委員会教育総務課
担当:小林(秀)、小酒井 電話:025-545-9262

安塚中学校、浦川原中学校及び大島中学校の統合に係る取組について

1 主な取組経過の概要

※区の名前を記載していないものは、3区において実施

期間・期日	取組	概要
R1. 7	教育長と保護者の意見交換会	・小中学校保護者を対象に、教育長が教育環境の現状等を説明
R1. 12～R2. 3	小中学校の在り方に関する PTA によるアンケート (PTA 主催)	・保小中保護者へのアンケートと結果の共有
R3. 4～R3. 9	保護者との意見交換	・学校適正配置の考え方・取組状況の説明と意見交換
R3. 10～R3. 11	保護者代表との意見交換	・保護者との意見交換を踏まえ、市教委が学校の適正配置の方向性案 (中学校は浦川原中学校を使用して統合、小学校は継続協議) について取りまとめ
R3. 12	保護者との意見交換	・市教委が学校の適正配置の方向性案について説明し、合意を得た
R4. 1	地域協議会への説明	・市教委が学校の適正配置の方向性案を地域に説明することについて、合意を得た
R4. 1～R4. 2	町内会長連絡協議会への説明	・市教委が学校の適正配置の方向性案を地域に説明することについて、合意を得た
R4. 2～R4. 3	小中学校運営協議会への説明	・市教委が学校の適正配置の方向性案について説明し、合意を得た
R4. 3	地域への説明	・市教委が学校の適正配置の方向性案について説明し、合意を得た
R4. 4	統合の方針決定 地域へのチラシ配布	・住民の様子から統合することについて一定程度の理解を得られたと判断し統合を決定、今後統合方法について検討することとあわせて周知
R4. 4～5	地域協議会、町内会長連絡協議会、学校運営協議会、保小中保護者代表への説明	・住民説明の報告 ・統合方式に係る意見交換会の周知と代表者選出を依頼
R4. 5. 19	第1回安塚中学校・浦川原中学校・大島中学校の統合方式に関する意見交換会	・統合方式に係る説明 ・統合に向けたスケジュールの説明 ・代表者選出団体内の意見のとりまとめを依頼 ・統合方式に係る保護者アンケートと中学校生徒への学校統合の説明会について確認
R4. 6	中学校生徒への説明会	・学校統合に係る諸事項について説明 ・保護者へ「たより」により実施概要を報告
	統合方式に係る保護者アンケート	・保小中の保護者にアンケートを実施、結果を報告 ・新設統合を希望する保護者が過半数以上
R4. 6. 30	第2回安塚中学校・浦川原中学校・大島中学校の統合方式に関する意見交換会	・保護者アンケートの結果と中学校生徒への説明の様子を報告 ・「新設統合」による統合方式を確認
R4. 7. 27	統合方式の方針決定 地域へチラシ配布	・統合方式を「新設統合」に決定し、統合方式に関する意見交換会と保護者アンケートの結果とともに周知
	地域協議会への説明	・統合方式を「新設統合」に決定したことの報告 ・今後のスケジュールについて説明

2 統合までの主な予定

年	月	内容
令和4年度	8月～9月	地域協議会へ中学校廃止の諮問、答申
	8月下旬～9月中旬	新しい校名公募
	9月下旬	(仮称)3区中学校統合実行委員会設置準備委員会の設置
	9月下旬～11月中旬	校名候補の選定と決定
	11月下旬～12月下旬	浦川原区地域協議会へ新設統合による中学校設置の諮問、答申
	12月以降	(仮称)3区中学校統合実行委員会の設置と統合に向けた諸準備 (校歌・校章、通学路及び通学方法、PTA組織、制服・体操着、後援会組織など) 中学校校長連絡会(中学校合同教育研究会)による新教育課程の作成や 学校管理の検討、事前交流活動や合同授業の計画 浦川原中学校の施設・設備の整備
	3月	学校設置条例改正に係る議会での承認
令和5年度	4月以降	生徒間交流・合同授業の実施 PTA交流活動の実施
	10月～11月	各校閉校式典
	3月	各校PTAや後援会の解散 備品の運搬等

3 その他

【参考資料】

<生徒数推移の予想(特別支援学級在籍児童生徒数を含む)>

令和4年5月1日現在

学校名	安塚中				浦川原中				大島中				安塚中+浦川原中+大島中			
	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
R2年度	15	6	18	39	35	27	31	93	4	11	3	18	54	44	52	150
R3年度	6	16	7	29	23	35	27	85	6	3	11	20	35	54	45	134
R4年度	8	7	17	32	13	23	35	71	5	6	3	14	26	36	55	117
R5年度	13	8	7	28	24	13	23	60	6	5	6	17	43	26	36	105
R6年度	5	13	8	26	24	24	13	61	5	6	5	16	34	43	26	103
R7年度	4	5	13	22	27	24	24	75	7	5	6	18	38	34	43	115
R8年度	6	4	5	15	22	27	24	73	8	7	5	20	36	38	34	108
R9年度	6	6	4	16	15	22	27	64	4	8	7	19	25	36	38	99
R10年度	6	6	6	18	24	15	22	61	3	4	8	15	33	25	36	94

※表の色付き部分は、複式学級相当(中学校では隣接2学年合計8人以内で複式学級となる。また、弾力的運用で別の学年を複式学級とすることもあり)。

※令和5年度以降の入学者数は、令和4年5月1日現在の住民基本台帳上の人数から推計。(附属中学校、中等教育学校、特別支援学校、校区外等への通学者を含む人数)。

令和4年度 大島区地域協議会視察研修の概要について（案）

1 目的

移住者が活躍している集落を視察し、移住者の取組や受入集落のサポートの状況等について把握することにより、今後の地域づくりに向けた議論への参考とする。

2 視察先候補

(1) 柏崎市高柳町荻ノ島集落

人口：約 50 人 世帯数：約 20 世帯

【概要】

- ・平成 6 年に「荻ノ島かやぶきの宿」の営業を開始
⇒多くのメディアや視察をする団体が訪れ、観光バスが行き交う場所になった。
- ・不特定多数の人と交流する観光を続けても、集落の存続にはつながらないと考えるように・・・
⇒平成 25 年に地域づくりの方向性を大きく転換！
- ・荻ノ島の暮らしに“共感”する人たちと深く交流
(農村インターンシップなどを通じて、大学生や 20 代の人たちの受け入れなどを積極的に行う)
⇒集落の一員として一緒に活動するようになる。

集落の暮らしや考え方に共感する若者 5 人が移住し、活躍している。

ウーマン ファーマーズ ジャパン

(2) women farmers Japan株式会社（十日町市）

【概要】

- ・women farmers Japan 株式会社の代表取締役である佐藤可奈子氏は大学在学中に十日町市池谷集落での新潟県中越大震災の復興支援のボランティアに参加した。その後、何度も集落を訪れた。
⇒平成 23 年に池谷集落に移住し、農業に取り組む。
- ・周囲の支援や女性ならではの視点や発想で取組を進める。
⇒取組が高く評価され、平成 29 年に女性のチャレンジ賞（男女共同参画担当大臣賞）を受賞。

佐藤氏は、農業や里山の文化を未来へつなげる活動を精力的に行っている。

<活動紹介>

- ① 中山間地域の農家による生産組合を組織し、さつまいもを生産して、営農指導や全量買取りを行い、食品加工所で干し芋やさつまいもスイーツとして販売
- ② 女性農業者の自立支援としてコミュニティ運営、経営ゼミを開催
- ③ 日本初のこども鍬を三条市の老舗鍛冶屋と共同開発、販売

3 実施日 10月中旬から11月中旬頃

※視察先と調整の上、後日決定する。

4 その他 視察の振り返りについて